本橋知香（もとはしちか）さん・本橋武男（もとはしたけお）さん
栄町在住／共に50歳代

本橋さん夫妻は、代々続いた農家の七代目。武男さんは、農業専門学校卒業と同時に家業を継ぎ、昭和48年に知香さんと結婚しました。「私も農家の出なので農家に入ることには何の抵抗もありませんでした。1年目には子どもも生まれましたが、義母が見てくれたので、夫と一緒に畑に出てました。畑仕事は全く苦ではありません」と知香さん。「ずっと一緒に畑仕事をしてくれて、自分の楽しみの時間も取れず、大変だったと思います」と、ねぎらう武男さんです。

## 畑のうつり変わり

広さが4500坪という畑の作業ですが、「撒種なども機械化しているので、親世代ほどの労働ではありません。朝は9時頃から畑に出ます」というお二人。「結婚当初はキャベツ・大根・うど・人参などを作って市場に出荷していたので、出荷時は忙しかったし、キャベツの春と秋の収穫時も忙しかったですね。その割には価格の変動が大きい野菜で、一人で相談して、周年、安定供給できるほうれん草など、葉物のハウス栽培に切り替えました。地産地消の考え方が広がり始めた10年程前からは、市場への出荷もやめて、地元のスーパーなどに生産者の写真入りで直接卸しています。昭和56年には梨園も始めていました」

「夫婦で話し合いながら、徐々に転換をはかってきた農業経営ですが、両親に理解があって、何でも好きにやれと任せてくれたからこそできたことです」と。

## 農家での子育て

「三人の子どもたちは、特に言わなくても人参の袋詰などを楽しみながら手伝っていました。子どもの成長には役立っていたかと…。私自身も農家で育ち、農家で子育てができたことを、良かったと思っています」と知香さん。「倅には私の経験から、若い間は社会に出て、違う職業の人とも接して広く学び、お金を稼ぐ大変さも実感して欲しいと思っていました。現在倅は外で働いています。集団の中で、自分と周囲を認識できるよう育って欲しいと、小学校3年の頃から野球チームに入れ、高校まで続けました。私もコーチをしていましたが自営業なので、時間は調整できました」武男さんは頼もしい父親です。

「毎週、土・日には私も一緒に、遠くは横浜まで試合や合宿にも行きました。親子共通の話題も増え、友人もできて、今もその人たちとのつながりがあります。子どものおかげですね」と、当時を振返る知香さんです。

## 二人のこれから

「倅が家業を継ぐまでの間、我々もまだ若いから二人仲良く農作業をしていたいですね」

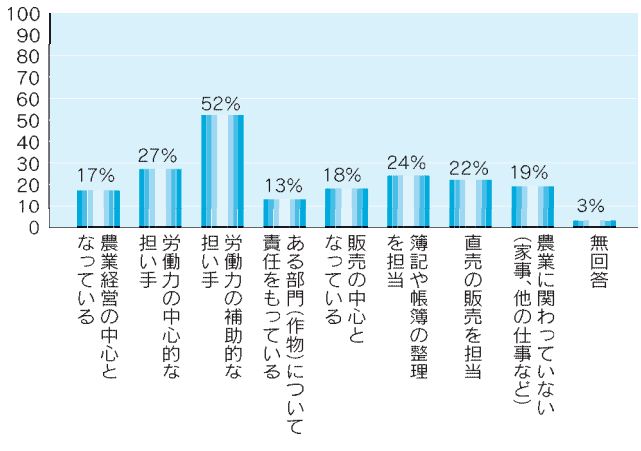
「夫は真面目で、作物づくりに一生懸命です。私もそんな夫に協力して畑をやっていきたいと思っています」

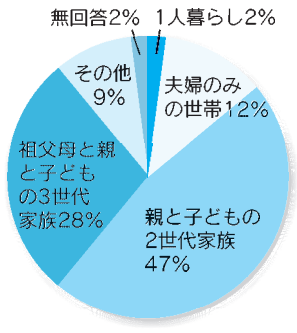
脈々と続いてきた農家を守り、共に力を合わせて作物を育て、子どもたちを育ててきた本橋さん夫婦です。

農業を愛するお二人の志は、次の世代へと確実に受け継がれてゆくことでしょう。

**平成14年度西東京市 農業振興計画策定委員会調査報告書より**

女性の役割




同居している家族構成